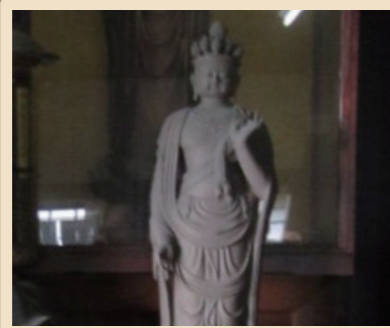




明治22年(1889)の高潮災害を伝える
慈眼寺の海嘯記念碑(東海市)



昭和19年(1944)昭和東南海地震のあと、光照院
に納められた常滑焼のおぼなる観音(半田市)



じわれん



じわれん

歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 知多編

先人たちが伝えようとしたことに、
耳を傾けてみんかの



げんさい
減斎さん

雁宿公園にある、昭和19年(1944)昭和東南海地震の慰霊碑(半田市)



殉難学徒之像

追憶之碑

平和祈念碑



地震や波浪など数度の災害を受け
社殿を移転している内宮御祭宮社(常滑市)



日間賀島が「タコの島」と呼ばれる由来となった、
章魚(たこ)阿弥陀如来がご本尊の安楽寺(南知多町)



つなみん



つなみん



つなみん

No	東海市	碑史跡	エリア
1	東海町付近		B1
2	慈眼寺(海嘯記念碑)*	△	B1
3	東平井付近		B2
4	中川筋堤		B1
5	鹿持付近		B2

No	大府市	碑史跡	エリア
1	共長小学校		B1
2	横根後田付近		B1
3	神明社*		B1

No	知多市	碑史跡	エリア
1	北浜町付近		A1
2	岡田町付近		A2

No	阿久比町	碑史跡	エリア
1	草木小学校		B2
2	阿久比町付近		B2
3	南部小学校		B3
4	東部小学校		B2
5	板山(旧板山村)付近		B2

No	常滑市	碑史跡	エリア
1	内宮御祭宮社*		A2
2	光明寺		A2
3	三和小学校(旧三和村立国民学校)		A2

No	武豊町	碑史跡	エリア
1	富貴小学校*		B4
2	皆満寺		B3

No	美浜町	碑史跡	エリア
1	野間町付近		A4
2	河和町付近		B4
3	甘露寺*		B4

No	南知多町	碑史跡	エリア
1	内海(旧西端村)付近		A5
2	内海(旧中之郷村)付近		B5
3	宝積院*		B5
4	内海(旧北脇村)付近		B5
5	山海(旧久村)付近		B5
6	豊浜(旧須佐村)付近		B5
7	豊丘(旧乙方村)付近		B5
8	片名(旧片名村)付近		B5
9	島弘法*	△	C5
10	篠島		C5
11	日間賀島		C5
12	安楽寺(章魚(たこ)阿弥陀如来)*	○	C5

※：解説ページあり

- ：地震に関する碑・史跡
- ◎：地震・津波に関する碑・史跡
- △：高潮・波浪に関する碑・史跡

凡例	
○	地震・津波関係
●	碑・史跡 被害記録のみあり
●	● 宝永4年(1707)宝永地震
●	● 嘉永7年(1854)安政東海・南海地震
●	● 明治24年(1891)濃尾地震
●	● 昭和19年(1944)昭和東南海地震
●	● 昭和20年(1945)三河地震
●	● その他(年代不明を含む)
◇	遺跡調査時に確認された地震痕跡(砂脈・噴砂)
▽	(断層)
*	(地割れ)
▲	高潮・波浪関係

東海市では、
建物被害、堤防の亀裂、噴砂のほか、高潮などによる
浸水被害の記録があります。



知多市では、
建物被害、堤防の亀裂、津波避難の記録があります。



No	東浦町	碑史跡	エリア
1	海印寺		B2
2	藤江神社		B2
3	村木神社		B2
4	越境寺		B2
5	開眼寺		B2
6	稻荷神社		B2
7	村木常夜灯跡*	○	B2
8	入海神社		B2
9	生路門田付近		B2
10	太郎兵衛新田南堤		B2
11	成実新田付近		B2

No	半田市	碑史跡	エリア
1	北谷墓地(殉職者諸精霊の碑)*	○	B3
2	常楽寺		B3
3	雁宿公園*		B3
3	(半田・戦災犠牲者追悼平和祈念碑・殉難学徒之像・追憶之碑)	○	B3
4	半田小学校(旧半田第一国民学校)		B3
5	光照院(おほなみ観音像)*	○	B3
6	東洋町(旧山方新田)付近		B3
7	半田市役所(東南海地震の碑)*	○	B3
8	瑞穂町(旧康衛新田)付近		B3
9	新居町付近(旧乙川村の塩浜)		B3
10	東光寺		B3



- 東南海地震の碑
 - 雲心寺(震災弔魂碑)
- などもあります

東南海地震の碑は、南区にあります。
航空機製作所の工場において、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に犠牲となった方々を慰霊するために建立されたものです。
雲心寺(震災弔魂碑)は、熱田区にあります。
明治24年(1891)濃尾地震の際に、尾頭橋近くにあった紡績工場が被災した方々を弔うために建立されたものです。

常滑市では、
建物被害、津波被害、高潮被害の記録があります。



美浜町では、建物被害、地盤の亀裂・盛り上がりなどの記録があります。



南知多町では、建物被害、津波被害、地盤の亀裂・泥の吹き出し・盛り上がりなどの記録があります。



災害を今に伝える史跡など 東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町

東海市の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海地震の際に加木屋村(現在の加木屋町)では、中川筋で堤の両側が1400間(一間は約1.8m)に亘って割れ、鹿持雨池では35間程、東平井雨池では15間程、平子雨池では35間程に亘って堤が割れています。また、家のひさしが落ちたり、塀などが倒れたりしています。

明治24年(1891)濃尾地震の際に横須賀町では、社寺の常夜灯や墓地の石塔が倒れたりしています。

「東海市史」には、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際の東海市では、軟弱な地盤上に建てられた建物で被害が多く出たことが記載されています。

また、大田町蟹田内で行われた発掘調査では、江戸中期～近代の噴砂の跡も確認されています。

東海市では、このほか、暴風雨や高潮によっても堤防の決壊や浸水被害が出ています。



慈眼寺(海嘯記念碑)

所在地:東海市荒尾町峯脇
交通:名鉄常滑線「新日鉄前」より北東 約400m

海嘯(かいしょう)とは海嘯りのことで、地震による津波や高潮を指します。また、昔は高潮のことを「津浪」「津なみ」とも呼んでいました。

この碑は津波ではありませんが、明治22年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。

この明治22年の高潮では、堤防の決壊、海水の侵入などにより、小舟等の漂着、浸水被害が発生しています。



知多市の被災状況

知多市では、嘉永7年(1854)安政東海地震の際の状況を地域に残された古文書から知ることができます。松原村(現在の日長)の庄屋の古文書からは、家々の瓦が下がり、ひさしや壁が落ち、傾いた家が夥しく、池の堤にも地割れがあったものの、大きな被害ではなく、倒れた家もなく、津波も打上は少なかったことが伺えます。一方、中嶋村(現在の八幡)の庄屋の古文書では、大家の蔵や光明寺の庫裡まわりが壊れ、大きな津波が来たために、浜手の者は山手に走り上がったことが書かれています。

「佐布里のあゆみ」には、明治24年(1891)の濃尾地震の際には、佐布里でも危険を避けるために小屋掛けして寝泊りしたこと、公共用溜池の堤の裂けた箇所を全部修理するための補助金を申請したことが記載されています。

「岡田町誌」には、昭和19年(1944)昭和東南海地震では、岡田町の被害状況としてわかっているだけでも、全壊住宅20戸、半壊住宅101戸、全壊工場4棟、半壊工場3棟の被害を受けたことが記載されています。

阿久比町の被災状況

「阿久比町誌」には、宝永4年(1707)の富士山の噴火と地震により、崖崩れで田が埋まったことや家が倒れたことなどが記載されています。

昭和19年(1944)の昭和東南海地震では、住居・非住居、工場・学校等で全壊・半壊が起こっています。草木小学校では、校庭に大きな地割れも発生しています。

昭和20年(1945)の三河地震では、住居の全壊・半壊が発生しています。

大府市の被災状況

大府市では、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際の状況が吉川村の文書からうかがえます。この地震では、奥池・惣左上池・神池の堤防と用水路、巡見道、奥池下次新田、弥左池東などで31箇所の損壊がありました。

昭和19年(1944)昭和東南海地震では、横根後田内での境川堤防が崩壊し、川をせき止め、大きな被害が出ています。このほかに、共長小学校の校庭や周辺の道路に地割れが起きたり、建物が倒れるなどの被害が出ています。

昭和20年(1945)の三河地震では、鳥居や常夜灯の倒壊も出ています。

神明社

所在地:大府市神田町
交通:名鉄名古屋本線「豊明」より南西 約1.7km

創建は明らかではありませんが、社蔵の棟札には、享保12年(1727)と寛政3年(1791)に社殿造営とあります。昭和20年(1945)の三河地震により、鳥居、常夜灯が倒壊し、昭和34年の伊勢湾台風により社殿及び社務所が倒壊しています。その後、氏子の方々の熱意により復興しています。



東浦町の被災状況

東浦町では、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震、明治24年(1891)濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震などの被災の記録が残っています。

宝永4年(1707)の宝永地震では、緒川などの塩浜(塩田)が破壊されています。嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震では、明徳寺川の堤防が決壊しています。

明治24年(1891)の濃尾地震では、建物被害や、師崎街道で4箇所193間(1間は約1.8m)の陥没があったほか、藤江地区で海岸入江の堤防が陥落、橋梁の破損などの被害がありました。石浜地区では、明徳寺川の堤防が陥落、豆搦川の堤防が新田・川尻・西平地・入海田などで陥落、朝日新田・天王・成実新田で海岸の堤防が陥落しています。生路と藤江では、広範囲に破裂・陥没・崩壊・隆起・土砂の噴出などが発生しています。

昭和19年(1944)の昭和東南海地震では、住居の全壊・半壊・破損が多数あったほか、開眼寺の山門が全壊し、入海神社拝殿・社務所、海印寺寺置、藤江国民学校(現在の藤江小学校)校舎、藤江神社・稲荷神社の社務所なども破壊されています。道徳小学校の児童が疎開していた越境寺も壊れ、太郎兵衛新田南の堤防も陥没しています。県道にも大きな亀裂が入っています。

昭和20年(1945)の三河地震では、建物の全壊・半壊のほか、地面に亀裂が発生しています。成実新田では地盤が沈下し、稲の植付けの後水浸しになり、収穫ができない状態になっています。

村木常夜灯跡

所在地:東浦町森岡前田
交通:JR武豊線「尾張森岡」より東 約400m

村木常夜灯は、旧津島神社(現在の村木神社)への献灯、村中安全、海の安全を願って、旧大洗街道沿いに建立されましたが、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に倒壊しています。この跡地に、平成19年3月、史跡とするために常夜灯が再建されています。



災害を今に伝える史跡など 半田市

半田市の被災状況

半田市では、宝永4年(1707)宝永地震の際には、乙川の塩浜で被害を受けています。

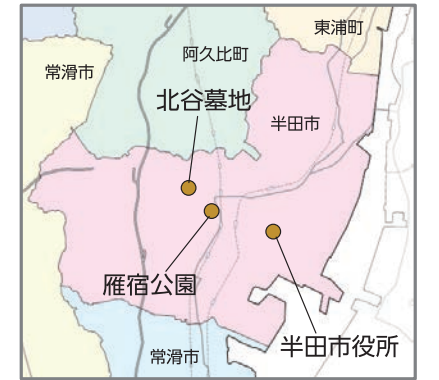
嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際には、家屋の倒壊が多く、道路に亀裂が生じたほか、午ヶ池・古池が決壊しています。また、津波により下半田地区は浸水しています。

明治24年(1891)濃尾地震の際には、下半田地区・上半田地区に家の倒壊あり、鉄道の軌道は破壊・屈曲しています。東午ヶ池が決壊し、康衛新田の堤防も決壊しています。また、地盤に亀裂が生じ、噴泥も発生しています。

昭和19年(1944)昭和東南海地震の際には、建物の全壊・半壊が多数あり、各地に地割れも発生しています。阿久比川と半田港に囲まれた低湿

地では、噴砂・噴泥・噴水が発生しています。特に中島飛行機半田製作所の被害が大きく、多数の人命が失われています。中島飛行機本工場のあった乙川駅付近は、窪地を埋めて造成されたこととされており、地盤沈下などが発生しています。中島飛行機半田製作所で大きな被害となったのは、元禄時代に海を干拓した軟弱な地盤上に工場があったこと(山方工場)、既存の工場を軍用機の組み立て工場として転用するために壁や柱を取り払ったこと(山方工場、霞野工場)なども要因の一つとされています。

昭和20年(1945)三河地震の際にも、噴砂があり、家屋の全壊・半壊も多数ありました。



北谷墓地(殉職者諸精霊之碑)

所在地:半田市柘町
交通:知多バス岩滑線「知多自動車学校前」より南西 約200m

中島飛行機は、昭和19年(1944)昭和東南海地震により、作業中に一命を失われた従業員、応徴士、女子挺身隊、動員学徒などの霊を慰めるため、「震災殉難者之塔」(木製の柱)を建立しました。その後、昭和20年(1945)7月の空襲で犠牲になった方々が合祀されました。戦後は、富士産業株式会社半田工場、愛知富士産業株式会社、輸送機工業株式会社と引き継がれ、就業中の不慮の災害により殉職された従業員の方々も合わせてお祀りされてきました。その間、昭和30年(1955)に再建された「殉職者諸精霊之塔」も朽ちてきたので、昭和55年(1980)に改めて「殉職者諸精霊之碑」として石製の碑が建立されました。



半田市役所(東南海地震の碑)

所在地:半田市東洋町
交通:JR武豊線「半田」より東 約700m

この碑は、半田市役所の敷地内に建てられています。

正面には「東南海地震被災の地」、側面には「中島飛行機山方工場跡」、「一九四四・一二・七 学徒従業員など犠牲者一五三人」、背面には「半田・平和祈念碑建立実行委員会 一九九六・七設置」と刻まれています。



雁宿公園(半田・戦災犠牲者追悼平和祈念碑)

所在地:半田市雁宿町 交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際の軍需工場での地震による犠牲者、昭和20年(1945)7月の空襲による犠牲者、動員中の労災死亡者、432人を追悼するために建てられたものです。戦時中の半田にゆかりのある動員体験者や市民の協力によって寄金がよせられ建てられました。平成7年7月に完成しています。



雁宿公園(殉難学徒之碑)

所在地:半田市雁宿町
交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震で亡くなった中島飛行機半田製作所の動員学徒96人と山二航空成岩工場で亡くなった1名を追悼した像です(山二工場で亡くなった方は後で追加されました)。昭和34年(1959)に完成しています。

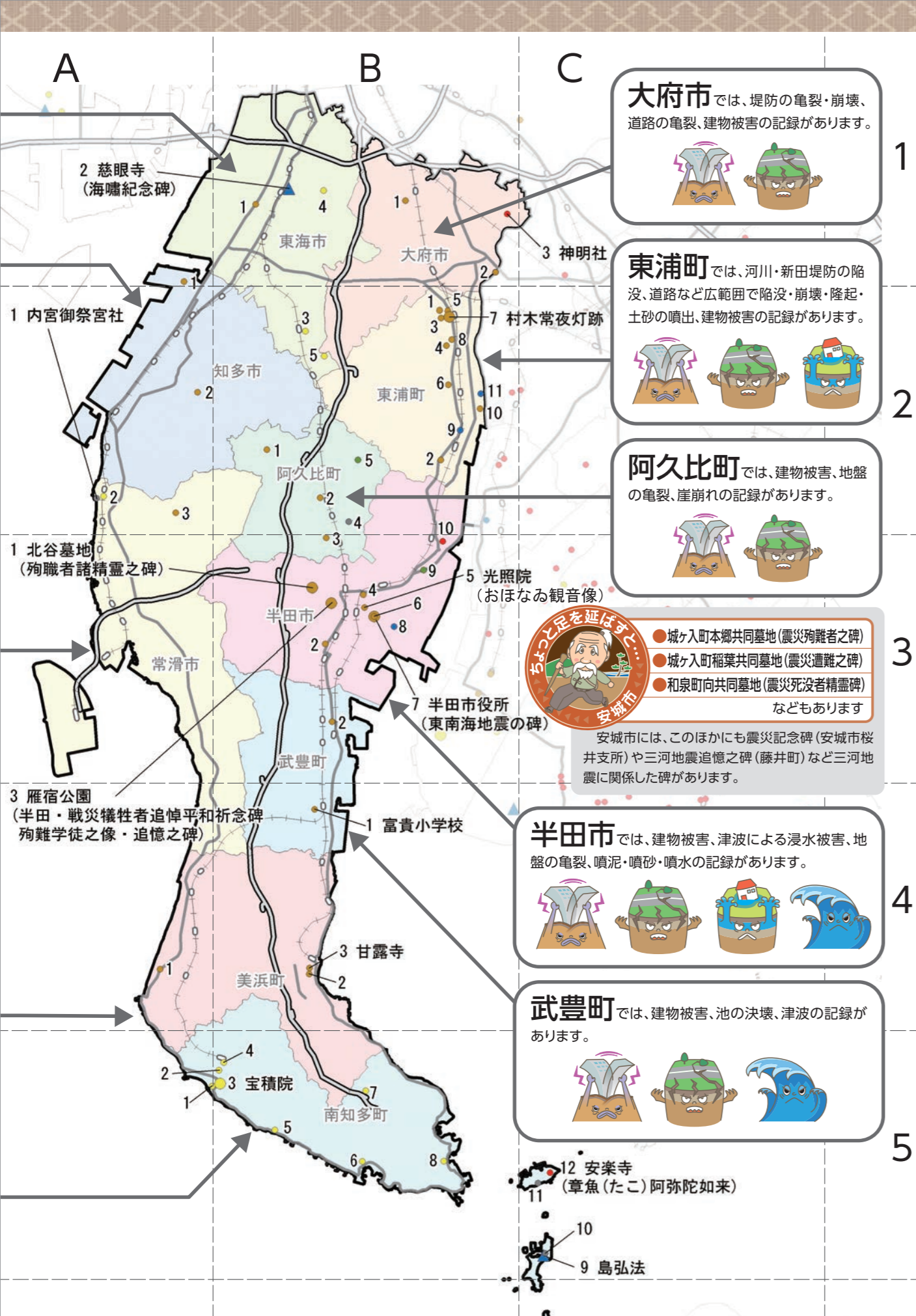


雁宿公園(追憶之碑)

所在地:半田市雁宿町
交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震で亡くなった学徒動員の生徒達を追悼するために、昭和25年(1950)の七回忌に集まった同級生達が募金運動をして建立したものです。表面には「追憶之碑」とあり、裏面には半田中学・半田高女・半田商業と半田・乙川・亀崎・成岩の各国民学校の「震災殉難学徒」四十八人の慰霊のために同期生一同が建設するという趣旨の文が刻まれています。この碑の礎石には、中島飛行機山方工場の国旗掲揚台の組石が利用されました。なお、この碑は、昭和26年(1951)に光照院本堂横に設置されましたが、平成6年に雁宿公園の殉難学徒像の隣に移転されました。





1 大府市では、堤防の亀裂・崩壊、道路の亀裂、建物被害の記録があります。

2 東浦町では、河川・新田堤防の陥没、道路など広範囲で陥没・崩壊・隆起・土砂の噴出、建物被害の記録があります。

3 阿久比町では、建物被害、地盤の亀裂、崖崩れの記録があります。

3 安城市には、このほかにも震災記念碑(安城市桜井支所)や三河地震追憶之碑(藤井町)など三河地震に関係した碑があります。

- 城ヶ入町本郷共同墓地(震災殉難者之碑)
- 城ヶ入町稲葉共同墓地(震災遭難之碑)
- 和泉町向共同墓地(震災死没者精霊碑)などもあります

4 半田市では、建物被害、津波による浸水被害、地盤の亀裂、噴泥・噴砂・噴水の記録があります。

5 武豊町では、建物被害、池の決壊、津波の記録があります。



こぼれ話

●雁宿公園にある「追憶之碑」は、当初、半田市内の**光照院**に建てられた際には、同時に、常滑焼の**おほなる観音**と呼ばれる十一面観音像もお寺に納められました。現在では、「追憶之碑」は雁宿公園に移っています。おおい観音像は光照院にありますが、市民の目に触れることがほとんどなくなっています。



ちょっといい話

●**中野(中埜)又左衛門さん**
半田、岩滑周辺では、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震と津波、安政2年(1855)の大暴風雨で浸水被害を受け、米もとれず、生活にも困窮する状態となりました。半田の醸造家であった三代目**中野(中埜)又左衛門さん**は、資金を投入し、治水と海運の利便のために山方新田を切り開きました。また、村人の殖産のため、本邸を高台に移す大工事を安政2年(1855)から文久2年(1862)にかけて行い、地域の人の雇用を創出し、生活の糧の確保に尽力しました。

●**関東大震災の際、この地域では...**
大正12年(1923)の関東大震災の際には、知多郡各地では、個人のみならず町・仏教会・在郷軍人会・消防組・学校などそれぞれ組織を通じて義捐金ばかりか衣類・米・みそ・漬物など救援物資を関東地方へ送っています。なかには、学校で大震災の話聞いて、直ぐ自宅に帰り、自分の貯金全部を受持教師の所に持参し、東京地方の人々に送って下さいと申入れた小学生もありました。

参考情報

●半田市にある北谷墓地には、昭和34年(1959)の伊勢湾台風で亡くなった方々の鎮魂のために、「鎮魂碑」も建てられています。正面には「1959年伊勢湾台風犠牲者鎮魂碑」と刻まれています。この碑は、伊勢湾台風50年鎮魂の碑をつくる有志一同によって、平成22年1月に建立されました。北谷墓地には、このほかにも、半田市出身の児童文学作家新美南吉のお墓もあります。

●半田市には、明治から昭和にかけての地震、暴風雨に耐え抜いた小栗家本宅もあります。

先人の声を聞き活かしていくことが大切なじゃ

げんさい 減齋さん
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。



こんな言い伝えもあります

●篠島・日間賀島周辺の暗礁は、貞観4年(862)の大地震によりできたと言われています【篠島地域の大地震】
●嘉永7年(1854)安政東海地震の前日、日間賀島にある大安寺の阿弥陀様が血のような涙を流したので、何事が起こると思い、舟を出さないように触れ回り、様子を伺っていたところ、翌日大地震になり、島中の人が助かった、という言い伝えがあります。

防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掘っておきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

関連情報

- 南知多では、「郷土研究誌みなみ」が発行されており、歴史地震記録を調べる際にも参考になります。(美浜町図書館、半田市立図書館などでご覧になれます)
- 地震の際の体験談がまとめられています。「地震体験記録集-関東大震災・東南海地震・三河地震-」(愛知県)「半田の戦争記録-半田市誌別巻-」(半田市)など「ばれいしょの青春~学徒動員日記四一八日~」(名古屋広報研究所)など(愛知県図書館、半田市立図書館などでご覧になれます)
- 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。
<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

この資料について この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。この資料を作成するにあたり、下記の方々のおかげで、多くの皆様のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉 [歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会] 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦 (敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

発行: 愛知県防災局防災危機管理課 TEL:052-954-6191 FAX:052-954-6911 E-mail:bosai@pref.aichi.lg.jp

災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。

